

令和 5 年 7 月 4 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03030

研究課題名(和文) 格差社会のニーズに応える医学教育：「健康の社会的決定要因」教育プログラム開発

研究課題名(英文) Teaching medical students and junior doctors social determinants of health (SDH) in response to society's needs

研究代表者

武田 裕子 (TAKEDA, YUKO)

順天堂大学・医学部・教授

研究者番号：70302411

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、健康格差の原因となっている「健康の社会的決定要因(SDH: social determinants of health)」教育の推進を図り、教育プログラム開発とウェブサイト「SDH教育ポータル」(<https://sdhproject.info/>)の構築を行った。サイトには、経済的に困窮する患者に役立つ社会資源を検索する「経済的支援ツール」とSDH教育に用いる教材や資料を掲載している。3年間で約34000人が利用した。さらにSDH教育の効果を定量的に評価する社会的共感尺度(Social Empathy Index)の日本語版を開発し、またSDH教育が変容的学修につながることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

健康格差が生じる社会的背景を「健康の社会的決定要因(SDH: social determinants of health)」という。これは個人の力ではどうしようもない構造的な問題である。本研究は、医療者がこの社会的要因に目を向け、病気になったり治療を継続できないことを「患者の自己責任」として片づけてしまわないよう、教育プログラムの開発を行った。さらにその教育効果を定量的に測定する方法「日本語版社会的共感力測定尺度」の妥当性を確認し、プログラム評価を可能にした。本課題は、わが国の医学教育領域でSDHが知られていない時に開始され、健康格差の縮小という社会の要請に応える教育領域の確立に貢献した。

研究成果の概要(英文)：We have developed educational materials through a newly established website, "SDH Education Portal (<https://sdhproject.info/>)". This website consists of two parts: one is a tool to navigate learners to identify resources in the social security system, and the other is a collection of teaching materials, including presentation slides, cases for discussions, model programs, and links to research articles. More than thirty-four thousand people have reviewed the site.

We also have verified the Japanese version of the Social Empathy Index (SEI, originally presented in English by Segal et al.) is psychometrically sound to measure Japanese medical undergraduates' social empathy and identified the factors affecting the score. We qualitatively analyzed the students' essays describing their growth after the eight-week course of the elective program in the third year of medical school. The analyses illustrated that SDH education could provide students with transformative learning opportunities.

研究分野：医学教育学

キーワード：健康の社会的決定要因 健康格差 医学教育 社会的公正 教材開発 社会的共感力 プログラム評価 アドボカシー

1. 研究開始当初の背景

近年、わが国でも、「子どもの貧困」など所得格差の広がりに伴い、健康格差の顕在化が社会疫学調査で明らかになってきている。健康格差とは、社会的背景が異なることによって生じる健康状態や医療アクセスの不公平な差をいう。地域のつながりや頼れる人の存在、教育や収入など社会経済状況、居住地、さらには国の体制や社会状況、文化、環境など健康に影響する社会的背景を「健康の社会的決定要因: social determinants of health(SDH)」という。

Schroeder は、寿命を全うしない死亡(premature death)に寄与する要因として、遺伝的素因が30%、生活習慣が40%、残り30%は医療制度や社会状況、環境暴露としている(Schroeder SA. N Engl J Med, 2007; 357:1221-8)。生活習慣も家庭環境や成育歴に左右されるため、社会的要因が健康に与える影響は非常に大きいことが分かる。しかし、医学部では生物医学的要因に関する教育に重点が置かれ、個人の健康と社会との関わりについて学ぶ機会は公衆衛生学などの一部の授業に限られている。一方、医学部入学者の多くは比較的恵まれた家庭で育ち、経済的困窮や社会的困難を抱えている方々の置かれている状況やそれまでの人生を想像しにくい。

格差時代の今日、患者の生活背景を理解し必要な支援を行える医師の育成が、これまで以上に求められている。健康格差の社会的決定要因(SDH)に関する教育は、諸外国では医学部の社会的責任(social accountability)の一つと位置付けられ広く行われている。わが国でも、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」平成28年度改訂版で、「社会構造と健康・疾病との関係(健康の社会的決定要因: social determinants of health: SDH)を概説できる」という学修目標が初めて設定された。SDH教育プログラムの導入・普及を推進するには、指導する立場である教員・指導医による現場へのプログラムの移行しやすさ(transferability)が鍵となる。それには、SDHの理解に役立つ効果的な教材の開発や、それらを活用した教員・指導医の教育実践への支援が必要である。

さらに、SDH教育の推進には、こうした教育プログラムが学修者の意識や考え方を実際に変化させるものか、その効果を測定し、評価する必要がある。他人の状況を推察して理解する力は「共感力」と言われる。これまで学修者の共感力を高めるさまざまな教育が行われてきた。共感力評価に用いられる尺度の多くは、感情や認知的共感を測定するにとどまっているが、Segal et al. によって2011年に提唱された社会的共感力(social empathy)は、異なる文化や社会経済状況にある人々を理解し構造的な不平等や格差について洞察する力を指す。それらを含め様々な要素を測定するのが社会的共感力尺度(SEI)である。本邦の医学教育において、この社会的共感力尺度(SEI)を活用するには、日本語版の開発と、その信頼性や妥当性等の尺度特性の検証が必要である。なお、客観的指標を用いた定量的評価で測定できるのは教育プログラムの一部であり、その効果を明らかにするには質的な分析も求められる。

2. 研究の目的

本研究では、「健康格差の社会的決定要因(SDH)」に関する教育の推進を目指し、次の課題について取り組んだ:(1)SDHの理解に役立つ教育プログラムならびに教材の開発、(2)医育機関・研修病院への教育プログラムの導入支援、(3)SDH教育における学習者評価法の開発、(4)SDH教育プログラムの質的評価。

3. 研究の方法

(1) SDHの理解に役立つ教育プログラムならびに教材の開発

SDH教育を実践している研究分担者と共に、それぞれの授業を紹介するワークショップを実施し、教育プログラムの共有を図った。その際、プログラム紹介資料やSDH講義用スライドを作成した。また、領域専門家にSDH教育に関する講義資料や解説動画などの提供を依頼した。そのほかSDHに取り組む団体(日本HPHネットワーク <https://www.hphnet.jp/>)に、ウェブサイトで公開している教材や症例・事例集の利用を申請し許可を得た。さらに、SDHの存在を認識して取り組む事例として、性的指向・性自認(SOGI: sexual orientation and gender identity)に関わらず受診しやすい医療機関づくり、日本語を母語としない方々の医療アクセスを改善するための医療者への「やさしい日本語」の普及、ろう者の医療機関受診時の困難に関する教育プログラム・教材作成を行った。

(2) 教育プログラムの導入支援

「健康の社会的決定要因(SDH)教育ポータル」というウェブサイト(<https://sdhproject.info/>)を構築し、(1)で作成した教材をそこから自由に閲覧できるようにした。また、指導医・教員のための教育ワークショップやファカルティ・ディベロップメント(FD)において、教材や教育プログラムの紹介を行った。さらに、日本医学教育学会機関誌『医学教育』において、SDH教育に関する特集を企画した。その他、SDHの考え方と全国の実践例を紹介する教科書『格差時代の医療と社会的処方 - 病院の入り口に立てない人々を支えるSDH(健康の社会的決定要因)の視点』を上梓した。

(3) SDH教育学習者評価法の開発

Segal et al. が作成した英語版「社会的共感力尺度(SEI)」の 35 項目を日本語に翻訳し、さらにその逆翻訳を行った。開発者である Segal 博士に確認を依頼し、承認を得て日本語版質問票を作成した。さらに、先行研究より、共感力に影響することが知られている特性を尋ねる調査票も作成した。まず、A 大学医学部 1、2、4 年生 414 名にインターネットを用いて、無記名のアンケート調査を実施した。SPSS 28.0 を用いて探索的因子分析を行い、因子構造を明らかにして構成概念妥当性を検証した。さらに既知グループ妥当性についても検討した。質問票としての信頼性、妥当性を確認後、B 大学 6 年生 133 名、C 大学 1～6 年生 750 名を対象にそれぞれ調査を実施した。

(4) SDH 教育プログラムの質的評価

A 大学では、2015 年より医学部 3 年次に選択制の 8 週間体験型学修プログラムを実施している。学生は、路上生活者や貧困家庭の子どもたちなど周縁化された人々の支援活動に参加する。活動の度にグループディスカッションを行い、ゼミ開始時の認識と体験で得た理解の違いを省察し、同級生と共有することを繰り返す。学生たちは、ゼミの課題として、経験学修の後にレポートを提出する。ゼミ期間の終了時には、同級生と共同で、出会った方々をアドボケイトする動画作成の課題に取り組む。本研究では、2015 年度から 2021 年度のゼミ選択学生 33 名のレポートと各年度で学生が共同制作した動画について、テーマ分析を行った。コーディングには、NVivo12 を用いた。独立した 2 名の研究者がカテゴリーを確認し、合議して概念図を作成した。概念図は、課題動画のなかの学生たちのナレーションと照らして検証し、トライアングレーションを図った。

4. 研究成果

(1) SDH の理解に役立つ教育とその際に活用できる教材の開発

本課題研究者がそれぞれの大学において以前から取り組んでいる教育プログラムに SDH の視点を取り入れ、さらに本課題で作成した教材を活用するなどしてプログラムの充実を図った。SDH の講義で利用できるパワーポイントや事例、動画教材、SDH 教育の実践例を紹介した医学教育論文を収集した。

本研究期間はコロナ禍と重なり、オンライン講義が主となっていたこともあり、講義用スライドの他に、短い動画教材と併せてそれを用いたオンライン授業の進め方を解説した論文を作成した(医学教育, 51(3):268-9, 2020)。また、コロナウィルスの PCR 検査を、日本語を母語としない患者に「やさしい日本語」で行う動画教材(<https://www.youtube.com/watch?v=nwne9781JBc>)を作成し、論文化した(医学教育, 51(3):334-5, 2020)。どちらの論文も日本医学教育学会誌に掲載され、実践報告部門の年間トップ 10 に選ばれた(医学教育, 53(6)548)。PCR 検査の動画教材は、これまでの 3 年間で 1 万 3000 回再生された。

(2) 教育プログラムの導入支援

SDH 教育の導入を支援する目的で、SDH 教育に活用できるウェブサイト「健康の社会的決定要因(SDH)教育ポータル」(<https://sdhproject.info/>)を構築した。2020 年に制作し、当初は URL を知っているユーザーのみの限定的な利用としていたが、2021 年 9 月に検索で表示されるサイトとして誰にでもアクセス可能とした。2021 年 9 月から 2023 年 6 月の期間に、33,525 件の新規ユーザーを獲得し、そのうち 15.6% がリピーターとなった。日本からのアクセスが 91.1% で、米国 2.7%、中国 1.5% で、タイ、台湾、韓国、ベトナム、ブラジルからも 100～250 件のアクセスがあった。ページビューは約 12 万件であった。

サイトは 2 部に分かれている。第一部「経済的支援ツールの検索」は、日本 HPH ネットワークが作成した紙媒体の「医療・介護スタッフのための経済的支援ツール」をインターネットで検索できるように、プログラムしたものである。患者の抱える困難の種類をクリックすると利用できる可能性のある社会保障制度とその概要が表示される。例えば、「医療費の支払いが必要」「借金の返済に困っている」を選択して確認ボタンを押すと、無料低額診療事業・自立医療支援・難病医療費助成制度・高額療養費制度・法テラスが概要と共に表示される。手元のスマホや PC で検索できるようにすることで、症例検討会や外来診療で活用できるようにした。第 2 部「資料集」には、(1)の教材へのリンクが示され、PDF をダウンロードできる。動画教材については、ウェブサイトから利用申し込めると、視聴するための URL が自動的に届く仕組みとなっている。

学修者が SDH を学ぶ意味を理解するには、社会的要因が健康に影響するというデータを示すだけでなく、「親ガチャ」のように身近なこととして捉えられる事例を提示すること、さらに、SDH に気付いた時に医療者・医療系学生として何らかにできることがあると併せて伝えると効果的である。「経済的支援ツールの検索」は、さまざまな支援制度の存在や患者の医療以外のニーズに目を向けるきっかけとなる。

SDH 教育については、日本医学教育学会機関誌『医学教育』50 巻 5 号で、『特集：格差時代に医学教育で取り組む「SDH」とは』を企画し、実践的な取り組みを紹介した。J-STAGE によるフリーアクセスとなっている。「格差時代に医学教育で取り組む SDH とは?」は、特集論文の年間ダウンロード数第 2 位であった。その他、社会的・文化的背景が健康格差の原因となっている方々への医療についても『医学教育』誌で特集を組み、具体的な対応例を紹介した。『特集：「SOGI(性的指向・性自認)」に配慮できる医療者の育成』(2023 年 54 巻 1 号) 日本語を母語としない方々の健康格差について『特集：多文化共生時代の医学教育(2020 年 51 巻 6 号)』。ろう者の医療機関受診時の困難については、動画教材を作成し、YouTube 上で視聴できるようにした

(<https://www.youtube.com/watch?v=Fxst42WefYk&t=2s>)。今後は、インクルーシブ教育に関する発信も行う予定である。

(3) SDH 教育学習者評価法の開発

「社会的共感力尺度(SEI)」日本語版を用いて、A 大学医学部 1、2、4 年生 414 名にインターネットを利用した調査を実施した。249 名から回答を得た(回収率 60.14% ,有効回答率 55.56%)。因子分析では「巨視的な見方の取得 (MP:構造的要因の理解)」「認知的共感 (CE: 他者の状況を推察して理解できる)」「感情制御 (ER: 自分を見失うことなく他者の気持ちを感じることができ)」「情緒的反応 (AR: 他者の物理的痛みを想像できる)」の 4 因子を認めた(いずれも eigenvalue >1)。これらの累積寄与率は 46.1%であった。各因子の 係数は 0.67 から 0.92 であり、折半法では 0.94 であった。これまで共感力に影響すると言われていた以下の特性により、学生間に社会的共感力(SEI)に関する有意な差を認めた: 性別 ($p < .001$)、将来選択したい診療科 (横断的診療科と専門分化診療科; $p < .01$)、医学分野以外の読書や芸術への関心 ($p < .01$)、健康の社会的決定要因(Social determinants of health: SDH)に関する知識と理解 ($p < .05$)。本研究は、社会的共感力尺度 (SEI) 日本語版が、日本の医学生の社会的共感力を測定する尺度として構成概念妥当性と信頼性を有することを示した。同様の調査を、B 大学 6 年生にも実施した ($n=84$, 回収率 63.2%, 有効回答率 60.9%)。SDH の理解が高い群の方が、やはり有意に SEI が高い結果となった。C 大学では、279 名より回答を得た (回収率 37.2%)。結果は解析中である。

共感力は経験や学修によって後天的に獲得できることが知られている。社会的共感力は格差や不公正について理解し洞察する力であることから、健康格差をもたらす社会的要因(SDH)の学修によって高めることができると推測される。近年、日本では、COVID-19 の影響もあり貧困や孤立、失業など、健康格差の原因である社会的要因 (Social determinants of health: SDH) が顕在化し、SDH 教育が進められている。これまで、SDH 教育の評価は、提出課題などに基づき質的に行われることが多く、評価尺度を用いて定量的に継続して行う方法は確立されていなかった。本研究は、社会的共感力尺度 (SEI) 日本語版が SDH 教育プログラムの効果を測定する指標となりうることを示唆する。今後の医療者育成に重要な社会的共感力の教育を進めるにあたり、評価法の確立は教育に不可欠であり、社会的共感力尺度 (SEI) 日本語版開発の意義は大きい。今後は、SDH 教育が行われている他の医学部でも調査を実施し、実際に SDH 教育評価に役立つか検討が必要である。

(4) SDH 教育プログラムの評価

取り残されがちな人々の支援活動に参加した学生の体験学修のレポートを質的に分析した。その結果、「経験学修・省察による成長」「社会課題に関する気付き」「学習者自身の認識の変化」「SDH に関する認識の深まり」で、さらにこれらが「今後の役割・行動の探索」を促していた。「経験学修・省察」を繰り返すことが、さらに新しい気づきや、認識の強化につながっていた。振り返り(省察: reflection)を行い、社会の課題に気付き、自分自身の認識に大きな変化が起こり、行動に結び付けようと考えようになった。体験学習の経験や気づきを学生同士で共有し議論を深めることで、社会的公正についての理解、医師としての役割の認識につながった。当事者や支援者の語りに SDH を見出す体験学修は学生の認識を大きく変えた。支援活動参加という経験の「振り返り(省察)」を行い、気付きを概念化して行動に結び付けようとするプロセスは、Kolb の経験学修サイクルが示すプロセスで説明できる。

当事者や支援者の語りに SDH を見出す経験学修は、学生の認識を大きく変える。支援活動参加という経験の「振り返り・省察」を行い、気づきを概念化して行動に結び付けようとするプロセスは、Kolb の経験学修サイクルが示す通りである。さらに、本教育プログラムでは、学生は、周縁化された人々の語りの中に健康格差の原因である SDH を見出している。その過程で、それまでの自身の認識の誤りに気づき、自らの偏見を見出すきっかけを得ている。これらは、Mezirow の変容的学修理論の最初の段階と重なるものである。そうした経験や気づきを学修者間で共有し議論を深めることが、さらなる省察につながっている。その結果、これまで医学教育の中では殆ど取り上げられてこなかった社会的公正についての理解を促すと同時に、医師としての役割の認識につながるものが明らかとなった。一方、支援団体の存在とその役割を知る機会を得たことで、学生はセクターを超えた他領域の専門家との協働の意義を認識するようになった。

このように、経験学修を用いた SDH 教育は、社会の変化によって生じる健康格差に目を向け、行動できる医療者育成に有用であることが示唆された。今回の解析は、ゼミ直後のレポート解析と課題動画による検証にとどまっている。学生が将来医師として働く中で、今回生じた意識の変容が、どのような役割の変化をもたらすかは今後の研究課題である。

以上、本課題では、SDH 教育の教材・プログラム開発から、教育導入支援、評価尺度の開発とプログラムの質的解析を行った。研究課題開始時には、医学部教員にはあまり知られていなかったが SDH であるが、2023 年度の医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版では、この SDH に関して新たな目標が 10 項目以上設定され、「健康格差」や、「アドボカシー」、「公正な医療」という言葉が初めて登場した。本来与えられているはずの権利が守られていない時に声を上げられない方々の声になるというアドボカシーは、健康は人権であるという考えに基づいている。健康格差が広がるなか、SDH 教育が求められている。本課題の成果物がその推進に活用されることを期待する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 武田裕子, 北山真樹	4. 巻 53
2. 論文標題 作業療法士だから気づき、変えられる「健康の社会的決定要因」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子, 岩田一成	4. 巻 4961
2. 論文標題 「やさしい日本語」を用いた外国人診療	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医事新報	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子, 岩田一成	4. 巻 53
2. 論文標題 「やさしい日本語」で外国人患者とコミュニケーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 674-677
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田 裕子, 高桑 郁子, 武石 晶子, 森川 すいめい, 清野 賢司	4. 巻 101
2. 論文標題 ホームレス状態の方々を地域で支える「ハウジングファースト東京プロジェクト」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 1305-1311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 14
2. 論文標題 「自己責任」といわない医師を育てたい	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統合失調症のひろば	6. 最初と最後の頁 101-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 50
2. 論文標題 格差時代に医学教育で取り組む「SDH(Social Determinants of Health)」とは?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 415-420
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.50.5_415	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 209
2. 論文標題 身体の治療から社会的支援につなぐ: 路上生活者の医療相談から医師が学んだこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 548
2. 論文標題 SDHと医学生教育の実践: 卒後研修とヘルス・アドボケイト	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 民医連医療	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子, 高岡直子	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 プライマリ・ケアの現場で「貧困」に気づく・取り組む	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 プライマリ・ケア	6. 最初と最後の頁 32-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松裕和, 武田裕子	4. 巻 3(3)
2. 論文標題 医師の影響力を自覚的に用いる - アドボカシー活動とパートナーシップ構築	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 プライマリ・ケア	6. 最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田多一, 永石妙美, 大野直子, 武田裕子	4. 巻 49
2. 論文標題 災害直後の「支援」と「受援」を考えるアクティブ・ラーニング	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 219-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.49.3_219	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪谷ひなの, 八木瑚々朱, 武田裕子	4. 巻 21
2. 論文標題 "外国につながるのある子どもたち"への支援活動で学んだ健康格差の社会的要因(SDH)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外来小児科	6. 最初と最後の頁 96-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田昂平, 武藤優樹, 武田裕子	4. 巻 21
2. 論文標題 SDHを学んでからの2年間: 臨床実習で生じた思いの振り返り	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外来小児科	6. 最初と最後の頁 97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田 裕子, 建部 一夫, 岡田 隆夫	4. 巻 50
2. 論文標題 SDH を体験のなかで学び・伝える : 順天堂大学医学部の研究室配属選択実習「基礎ゼミ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 435-443
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.50.5_435	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子, 岩田一成, 石川ひろの, 新居みどり	4. 巻 51
2. 論文標題 YouTubeを用いた医療者向け教材の発信 : 「やさしい日本語」新型コロナウイルス検査編	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 334-335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_334	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千嶋巖, 武田裕子, 近藤克則	4. 巻 5
2. 論文標題 健康と社会を考える COVID-19パンデミックがもたらす健康格差	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 プライマリ・ケア : 実践誌	6. 最初と最後の頁 61 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 72
2. 論文標題 医療・看護の場で「やさしい日本語」を使ってみる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護協会機関誌	6. 最初と最後の頁 80-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子, 關根美和	4. 巻 51
2. 論文標題 オンデマンド講義におけるアクティブ・ラーニングの試み : 新1年生を対象とした「健康の社会的決定要因 (SDH)」の授業	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 268-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_268	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 51
2. 論文標題 特集：パンデミック下の医学教育-現在進行形の実践報告- 巻頭言	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 198-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_198	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 25
2. 論文標題 在宅医療におけるオープンダイアロギック的アプローチの可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訪問看護と介護	6. 最初と最後の頁 650-656
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 102
2. 論文標題 学問分野としてのpublic health概略 social and behavioral science 社会・行動科学 新たな視座で診療の幅を広げる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 963-969
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15104/J00821.2020359822	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 51
2. 論文標題 社会の構造的な健康決定要因 (SDH) を理解し働きかけられる医療者の育成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 637-638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.6_637	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子, 石川ひろの, 新居みどり, 岩田一成	4. 巻 51
2. 論文標題 外国人診療に役立つ「やさしい日本語」: 医療における協働を可能にするコミュニケーション	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 655-662
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.6_655	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 72
2. 論文標題 [外国人患者に伝わる「やさしい日本語」高齢者・小児にもわかりやすい]医療・看護の場で「やさしい日本語」を使ってみる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護	6. 最初と最後の頁 80 - 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 38
2. 論文標題 地域医療の現状と展望 急速に少子高齢化が進む地域を守る Key words 健康の社会的決定要因(SDH)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 カレントセラピー	6. 最初と最後の頁 1110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川ひろの, 武田裕子, 大坂和可子, 岡本佐和子, 藤崎和彦	4. 巻 12
2. 論文標題 多様性を理解し、支える医療コミュニケーション	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ヘルスコミュニケーション雑誌	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 弓野綾, 里井義尚, 西村真紀, 武田裕子	4. 巻 6
2. 論文標題 COVID-19パンデミック下のプライマリ・ケア診療 - SDHの視点を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 プライマリ・ケア	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子, 岩田一成, 新居みどり	4. 巻 6
2. 論文標題 外国人患者に伝わる「やさしい日本語」高齢者・小児にもわかりやすい	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護	6. 最初と最後の頁 80-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅広志, 熊倉陽介, 清野賢司, 武石晶子, 武田裕子, 森川すいめい	4. 巻 1769
2. 論文標題 路上生活者がアパートに住みたいと言えない理由.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 57-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 50
2. 論文標題 『公助』と『共助』が存在して『自助』が生きる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 50
2. 論文標題 身近な隣人としての外国人支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新居みどり, 武田裕子	4. 巻 6
2. 論文標題 外国人診療こそプライマリ・ケア医の守備範囲 - 求められる「医療のワンストップサービス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 プライマリ・ケア	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 5078?
2. 論文標題 東京五輪のレガシー：情報保障で誰も置き去りにしない社会へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 179
2. 論文標題 健康の社会的決定要因としての「日本語」 - 医療と「やさしい日本語」との出会い：研究会活動報告 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 5083?
2. 論文標題 カブール医科大学で学んだこと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 76
2. 論文標題 医療者が果たす役割 ヘルス・アドボケイト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保険診療10月	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 5088?
2. 論文標題 医療者の視点で人権を考える：長期収容というSDH	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 103
2. 論文標題 外国人にも伝わりやすい「やさしい日本語」 理解や聴こえに困難を抱える方々への情報保障 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 1508-1514
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 52
2. 論文標題 「分身の術」は教育で：研修医から教育・研究者、『医学教育』編集委員長への道	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 551-556
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.52.6_551	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 5105
2. 論文標題 ホームレス状態の方々のワクチン接種が実現したのは	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 28
2. 論文標題 社会的要因に伴う健康格差	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 調剤と情報	6. 最初と最後の頁 8-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 86
2. 論文標題 格差社会のニーズに応える保健医療人材の育成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 534-543
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 6
2. 論文標題 「リハビリテーション栄養」に取り組む医療者としてSDHとどう向き合うのか?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リハビリテーション栄養	6. 最初と最後の頁 210-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 74
2. 論文標題 在住外国人にとって医療者が身近な隣人となるためにー「やさしい日本語」でコミュニケーション -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学と福音	6. 最初と最後の頁 28-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 404
2. 論文標題 「やさしい日本語」で外国人患者ともコミュニケーション	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 複十字	6. 最初と最後の頁 14-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 591
2. 論文標題 「SOGI」によらず安心して受診できる大学病院 ~300人を超えるアライが誕生した順天堂医院の取り組み~	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 34 - 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 129
2. 論文標題 医療場面で役立つ「やさしい日本語」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 くすりの適正使用協議会	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 5138
2. 論文標題 臨床現場におけるSDHを考慮した診療と学習法 SDHの眼鏡をかけて患者理解を深める [プライマリ・ケアの理論と実践(160)]	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医事新報社	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田裕子	4. 巻 152
2. 論文標題 健康格差社会への対応	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本医師会雑誌	6. 最初と最後の頁 1745 - 1760
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 武田 裕子
2. 発表標題 社会的弱者・健康格差の課題への取り組み 健康格差・健康の社会的決定要因(SDH: social determinants of health)の教育
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田裕子
2. 発表標題 在留外国人への診療・保健活動を助ける「やさしい日本語」
3. 学会等名 第34回日本国際保健医療学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田裕子
2. 発表標題 海外実習の学修経験とアウトカムにおける中低所得国と先進国実習の差：日本の医学部卒業生を対象とした横断的調査
3. 学会等名 第34回日本国際保健医療学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Takeda
2. 発表標題 Research and Education in an era of Health Inequality
3. 学会等名 Society of General Internal Medicine (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeda Y, Wylie A, Handy H and Snell L.
2. 発表標題 International perspectives on incorporating concepts of social determinants of health into core curricula: challenges and opportunities.
3. 学会等名 Annual Conference AMEE (An International Association for Medical Education) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田裕子, 岩田一成, 金井彩音, 戸田さや香, 吉開章, 大北葉子, 岡田隆夫.
2. 発表標題 「やさしい日本語」を保健医療に導入する多職種間教育: 実践報告
3. 学会等名 日本国際保健医療学会大33回東日本地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田裕子, 大野直子, 坪谷ひなの, 金井彩音, 岡田隆夫
2. 発表標題 「やさしい日本語」スキル教育で健康格差の社会的要因と働きかけを学ぶ
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田裕子
2. 発表標題 医学教育：過去，現在，そして未来へ
3. 学会等名 日本医学教育学会50周年記念公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田裕子
2. 発表標題 日本プライマリ・ケア連合学会の「健康格差に対する見解と行動指針」
3. 学会等名 第4回貧困と子どもの健康研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Takeda, Yoon Soo Park, Sachiko Ozone, Hiroki Hori, Tetsuhiro Maeno, Hiroshi Nishigori, Linda Snell
2. 発表標題 Differences in Learning Experiences and Outcomes of International Health Elective Program Participants Who Visited Low-Middle Income or High-Income Countries: A Cross-Sectional Survey of Japanese Medical Graduates
3. 学会等名 Annual Conference AMEE (An International Association for Medical Education) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斎藤学，津崎たから，武田裕子
2. 発表標題 プログラム評価導入による卒業後へき地医療研修プログラムの改善と発展(2017-2019年)
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有賀麻輝江, 原尚子, 津崎たから, 石川ひろの, 新居みどり, 岩田一成, 武田裕子
2. 発表標題 『医療 × 「やさしい日本語」研究会』による医療関係者のための「やさしい日本語」研修
3. 学会等名 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田裕子, 堀浩樹, 小曾根早知子, 高屋敷明由美, 千嶋巖, 赤木正彦, 大矢亮, 船越光彦
2. 発表標題 医療者教育のための「健康の社会的決定要因 (SDH) 教育ポータル」構築
3. 学会等名 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田裕子, 石川ひろの, 岩田一成, 新居みどり
2. 発表標題 多文化共生時代の外国人診療は英語よりも「やさしい日本語」: You Tube教材の紹介
3. 学会等名 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田裕子, 石川ひろの, 岩田一成, 新居みどり, 有賀麻輝江
2. 発表標題 医療で用いる「やさしい日本語」(インタラクティブセッション4)
3. 学会等名 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田裕子、石川ひろの、岩田一成、新居みどり、有賀麻輝江、原尚子、津崎たから
2. 発表標題 外国人診療に役立つ「やさしい日本語」でコミュニケーション教育
3. 学会等名 第53回医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有賀麻輝江、原尚子、津崎たから、石川ひろの、新居みどり、岩田一成、武田裕子
2. 発表標題 「やさしい日本語」研修の開催と受講者の動向：医療関係者のために「やさしい日本語」普及のための試み
3. 学会等名 第53回医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 葛玉栄、有賀麻輝江、孫シシュウ、關根美和、武田裕子
2. 発表標題 「健康の社会的決定要因（SDH）」の体験学修で学生が得た気づき：変容的学修理論に基づく質的研究
3. 学会等名 第53回医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲葉加奈子、小曾根早知子、武田裕子
2. 発表標題 国内医学部における海外選択実習の中長期的影響 質的研究 - (第2報)
3. 学会等名 第53回医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮下采子、松野華菜、關根美和、武田裕子
2. 発表標題 コロナ禍で行われたcinemeducation:患者の自己責任という考え方を持つ学生への親和性
3. 学会等名 第53回医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田奈津美、星野美月、宇井陸人、武田裕子
2. 発表標題 医学生がお薦め映画に見出した学習項目：BPSモデルに基づく質的分析
3. 学会等名 第53回医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大橋宏平、住本晴香、武田裕子
2. 発表標題 ソーシャル・ネイティブなZ世代のオンライン授業とSNS利用：医学生対象アンケート調査が示す意識と態度
3. 学会等名 第53回医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田裕子、有賀麻輝江、岩田一成、新居みどり、石川ひろの、原尚子
2. 発表標題 外国人診療に役立つ「やさしい日本語」：新型コロナウイルス関連教材作製とその成果
3. 学会等名 第62回日本呼吸器学会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko Takeda
2. 発表標題 Social Empathy Index: A Psychometric Study and Group Comparisons among Japanese Medical Undergraduates, OTTAWA CONFERENCE, Lyon, France, 28th August 2022
3. 学会等名 Ottawa Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko Takeda
2. 発表標題 E-MIGRAGEING, Plain Japanese to promote health among people from overseas, Online, Karistad University, Sweden, 11th May 2022
3. 学会等名 MIRAI 2.0 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko Takeda
2. 発表標題 The diverse and different formation and implementation of social accountability in medical education in different contexts, Korean Medical Education Conference 2022 (KMEC2022), Online, Korea, 19th-20th May 2022
3. 学会等名 Korean Medical Education Conference 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 武田裕子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 236
3. 書名 格差時代の医療と社会的処方ー病院の入り口に立てない人々を支えるSDHの視点ー	

1. 著者名 武田裕子, 大滝純司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 株式会社メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 288
3. 書名 医療学総論 第1版	

1. 著者名 武田裕子, 岩田一成, 新居みどり	4. 発行年 2021年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 28
3. 書名 医療現場の外国人対応 英語だけじゃない「やさしい日本語」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>『SDH教育ポータル』ホームページ https://sdhproject.info/ 『医療 x 「やさしい日本語」研究会』ホームページ https://easy-japanese.info/ Web記事：社会的処方 を身につけ、本当の意味で患者に寄り添える医師を育成 https://www.juntendo.ac.jp/co-core/education/yuko_takeda.html Web記事：日本で暮らす外国人のための医療関係者向け「やさしい日本語」ワークショップを開催 https://www.juntendo.ac.jp/co-core/education/yasashii-nihongo.html Web記事：外国につながりを持つ家族への健康相談会を実施しました https://www.juntendo.ac.jp/news/20180703-01.html Web記事：（鼎談）格差時代における医療者の役割とは https://jnapcdc.com/LA/sdh/</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀 浩樹 (Hori Hiroki) (40252366)	三重大学・医学系研究科・教授 (14101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小曾根 早知子 (Ozone Sachiko) (80645549)	筑波大学・医学医療系・講師 (12102)	
研究分担者	金子 惇 (Kaneko Makoto) (80825076)	横浜市立大学・データサイエンス研究科・講師 (22701)	
研究分担者	孫 大輔 (Son Daisuke) (40637039)	鳥取大学・医学部・講師 (15101)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	近藤 克則 (Kondo Katsunori)	千葉大学・予防医学センター・教授	
研究協力者	舟越 光彦 (Funakoshi Mitsuhiko)	千鳥橋病院・予防医学科・科長	
研究協力者	大矢 亮 (Ooya Aki ra)	耳原総合病院・救急総合診療科・部長	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------